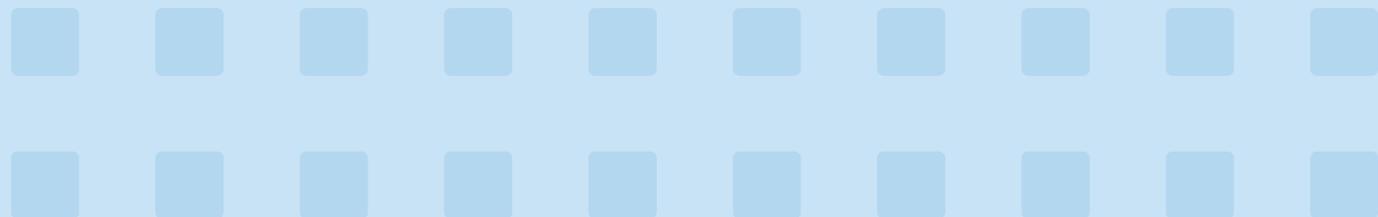


中耳炎のお話

ふくおか耳鼻咽喉科

〒477-0032 愛知県東海市加木屋町2-224-2

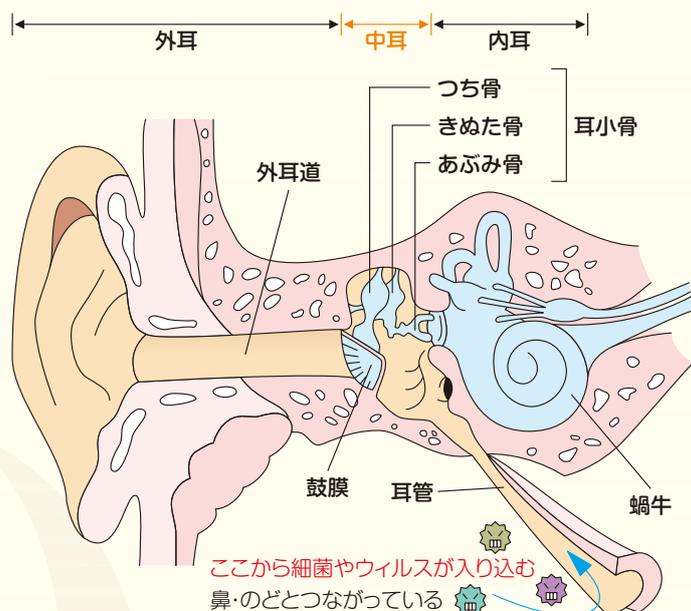
TEL (0562) 38-2800



中耳炎のお話

中耳とはどこにあるのですか？中耳炎とは何ですか？

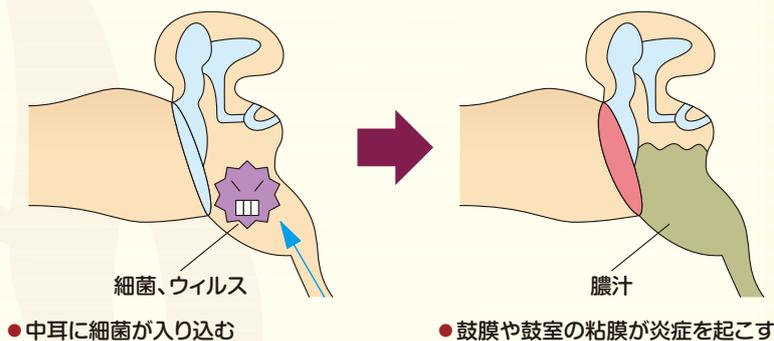
- 中耳とは、耳の奥（鼓膜のさらに奥）にあります。
- 中耳炎とは、中耳に炎症が生じている病気です。



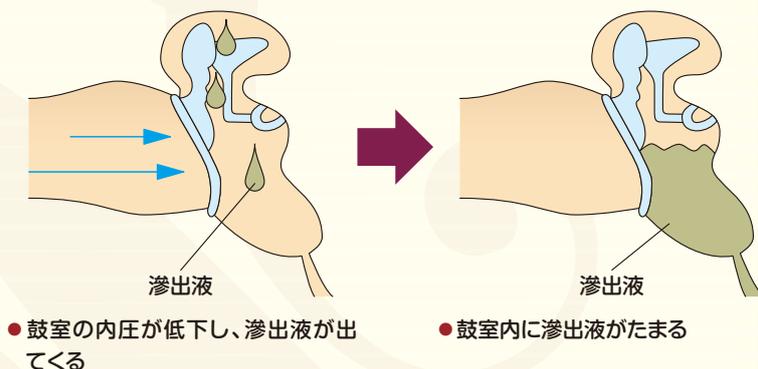
中耳炎にはどんな種類があるのですか？

お子さんに多いのは2種類です。

急性中耳炎



滲出性中耳炎



急性中耳炎のお話

急性中耳炎はどうしてなるのですか？

- カゼをひいて起きることが多いです。
- 大量の鼻水、鼻すすりなどで鼻・ノドについた菌やウイルスが、耳管(鼻と耳のとおり道)を通り中耳に入り中耳炎がおきます。

※鼻が悪いと中耳炎になりやすいのはこのためです。鼻すすりも中耳炎の誘因になるのでやめましょう。

急性中耳炎は何歳頃に多いのですか？

- 生後6ヵ月～1歳6ヵ月の間によく起こります。
- 3歳を過ぎると急に減ってきます。

※3歳までに5～7割のお子さんが一度はかかるとされている多い病気です。

急性中耳炎の症状は何ですか？

- 耳が痛い
- 耳だれ
- 耳に手をあてる
- 耳のつまり感
- 難聴
- 発熱

※原因がなかなか分からない発熱の場合、中耳炎のことがあります。



耳が痛い!!!



耳がふさがった感じや耳だれが出る。



熱を伴うこともある。



赤ちゃんの場合は、むずがったり、急に泣き出したり、耳によくさわることなどで症状を表現していることがある。

急性中耳炎は治るまでにどれくらいかかるのですか？

- 完全に治るまで、早くても**1～2週間**かかります。

※炎症の程度によって治るまでの期間が違います。

- 完治するまで治療しないと滲出性中耳炎になってしまいます。

治っても、繰り返すことはありますか？

- 3歳までのお子さんは、約5割の確率で繰り返すとされています。
それは感染に対する抵抗力が弱いためと、耳管(鼻と耳のとおり道)が十分に発達していないためです。
- 3歳を過ぎると急に減ってきますので、繰り返し起こったとしても、あせらずおきなくなる時期を待ちましょう。

滲出性中耳炎のお話

滲出性中耳炎はどうしてなるのですか？

- 急性中耳炎が、治療の中断などで完全に治りきらなかったためです。
- 飛行機などの急激な気圧の変化があったためです。
- ちくのう・アデノイドなどで**耳管(鼻と耳のとおり道)**が詰まったためです。
※鼻が悪いと中耳炎になりやすいのはこのためです。鼻すすりも中耳炎の誘因になるのでやめましょう。

滲出性中耳炎は何歳に多いのですか？

- 特に**1～6歳**のお子さんに多いです。

滲出性中耳炎の症状は何ですか？

- 難聴(返事をしない、聞き返しが多い、大きな声でしゃべる、TVの音が大きい)
- 耳をさわる。

※難聴が続くと言葉や学習の遅れにつながることがあります。

熱や痛みはなく
耳だれもありません



- 耳の間こえが悪くなる



- 耳がふさがった感じがしたり、
耳鳴りがする

こんな症状があったら
要注意

- 呼んでも返事をしない
- 聞き返しや聞き間違いが多い
- テレビの音を大きくしたり、近づいて見る
- よく耳をさわる

滲出性中耳炎は治るまでにどれくらいかかるのですか？

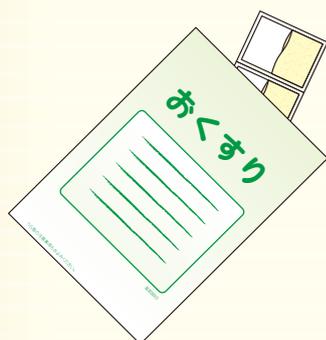
- 早くても**2週間**以上かかります。
- 数ヶ月かかることもありますし、再発することもあります。
- 2～10ヶ月の間で治ったり、再発したりするので注意が必要です。

その他

- 子供の滲出性中耳炎の**20人に1人**は難治化し、**400人に1人**は後遺症を残すとされています。
- 10歳以上の滲出性中耳炎は治りにくいとされています。

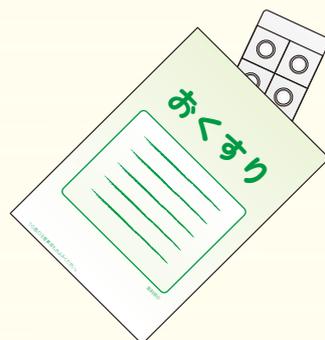
おもな治療法のお話

- 炎症の程度や原因によってさまざまです。
- まずはお薬になります。
抗生物質・消炎剤・解熱鎮痛剤の内服や点耳薬を使います。
炎症の程度、治り具合によりお薬を変更していきます。
※炎症が重い場合は、抗生剤の量を多めに処方することがあります。



抗菌薬の投与

さまざまな種類があり、原因となる細菌に合わせて処方されます。



解熱鎮痛剤の投与

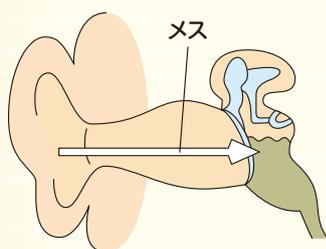
発熱や耳の痛みのほか、炎症を抑える目的でも使用されます。



点耳薬の投与

抗菌薬やステロイドを配合した薬剤を直接耳の穴から投与します。

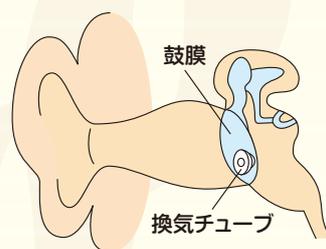
- 炎症が重い場合、お薬で治りが悪い場合は、**鼓膜切開**をします。



鼓膜切開

鼓膜をほんの少し切開し、鼓室内の膿や滲出液などを出すときに行います。

- 鼓膜切開を繰り返す場合は、**換気チューブ留置**をします。



換気チューブ留置

鼓膜に留置して鼓室の換気が行なわれるようにすることが目的です。

- 滲出性中耳炎の場合やちくのうを併発している場合。**(鼻が悪いと中耳炎は治りません)

抗生物質のクラリスを少ない量で1~3ヶ月間(治るまで)飲みます。

※抗生物質を長い間飲むので抵抗があるかもしれませんが1回に飲む量は少なくしてあり、長い間飲まないとも効果がありません。

治療は、
あせらないことが大切です。



よくある質問

ご注意
下さい

日常生活で注意することは何ですか？

point 1 かぜをひかないようにしましょう。

point 2 かぜをひいてしまったなら、こまめに鼻をかみましょう。

鼻をかむときは片方づつ、ゆっくり、やさしく。
強くかむと中耳炎が悪化することがあります。

point 3 鼻すすりをやめましょう。

point 4 完全に治るまで治療を続けましょう。

自分の判断で治療をやめないこと！

point 5 乳児の場合は、なるべく母乳で育ててください。

授乳の時は頭を高くしてください。

中耳炎になりやすい体質なのでしょうか？ 一度なるとなりやすいのですか？

決してそのようなわけではありません。まず中耳炎はよくある病気で**3歳までに5～7割**のお子さんがかかります。それは、お子さんは**大人に比べて抵抗力が弱い上に顔の形がお鼻のバイ菌が耳にいきやすいため**におこります。

鼻水が出てきたら早めに治療することで、予防することができます。

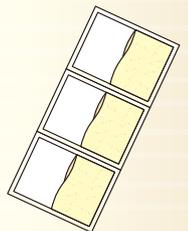
しかし、**過去半年以内に3回**、もしくは**過去1年間に4回以上**繰り返したり、**3ヶ月間治療**をしても治らない場合は**要注意**です。

抗生剤を長い間飲んでも大丈夫でしょうか？

通常の抗生剤の服用は5～10日間ぐらいです。しかし、滲出性中耳炎やちくのうのある場合は特殊で長い間お薬を飲まないとなかなか治りません。長い場合は3ヶ月間飲み続けることがあります。

まず、よく効く抗生剤を5～7日間飲みます。

そして、症状・所見が落ち着いたら、軽めの抗生剤を通常の半分の量にして長い間飲む治療になります。量が少ないので副作用も少ないです。



中耳炎で耳を急に痛がったり、お熱が出た場合どうしたらいいのですか？

- 解熱鎮痛剤(坐薬・内服薬)を使ってください。
- 耳の周りを冷やすのもいいです。
- もし、耳だれが出てきたら、こまめに拭いてあげてください。

※綿球などで耳栓をするのは禁止です。



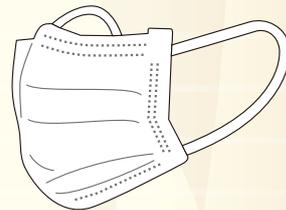
中耳炎の時、飛行機に乗ってもかまいませんか？

- あまりおすすめできません。気圧の変動により悪化する可能性があります。
- 鼓膜切開をした後や、すでに鼓膜に穴が開いている場合はOKです。



また、飛行機に乗るときの注意は？

- 風邪をひかない(手洗い、うがい、マスク)
- 鼻炎、花粉症の人は、あらかじめ医師に薬を処方してもらう
- 日ごろから、耳抜きを練習を



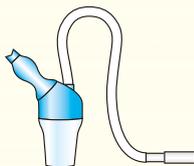
急性中耳炎の時、学校・保育園に行ってもいいですか？

- 38.5℃以上の高熱があったり、激しい耳痛がある場合は休ませてください。耳だれや鼻水があっても問題はありません。



鼻がかめない子はどうしたらよいでしょう？

- 鼻吸い器を用いて、こまめに鼻を吸ってあげてください。
- 部屋を加湿(湿度50~60%)してあげるのも、鼻水を出やすくする効果があります。

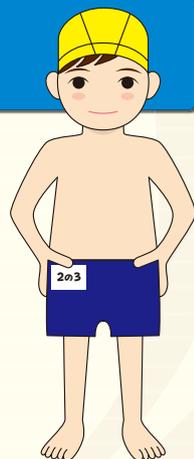


中耳炎の時、飛行機に乗って耳が痛くなったときの対処

- つばを繰り返し飲む
- あめをなめる、ガムをかむ
- あくびをする
- 下あごを左右に動かしながら、つばを飲む
- 鼻をかんでからつまみ、軽く「んっ」と耳抜きをする(力の入れすぎに注意)

急性中耳炎の時、プールに入ってもいいですか？

- 1週間ぐらいいは避けたほうがいいです。基本は中耳炎が治るまでです。プールの消毒液が、鼻やノドの粘膜を傷め、中耳炎の治りを遅くするためです。



急性中耳炎の時、お風呂に入っているんですか？

- 38.5℃以上の高熱があったり、激しい耳痛があったり、耳だれが出ている場合は2～3日は避けてください。体を温めると炎症が悪化するためです。
- それでなければ入浴は可能です。その場合、38～40℃ぐらいの温めのお湯にして、湯冷めしないようにして入浴後にはすぐに布団に入って休ませるようにしてください。
- 耳にお水が入らないように注意してください。



小さいお子さんが中耳炎になりやすいのはどうしてですか？

その原因は大きく3つに分けられます。お子さん自身、細菌、環境の3つです。

お子さん自身について

- 特に3歳までは細菌に対する抵抗力が弱いからです。(母乳で育てると比較的抵抗力が強くなるとされます。)
- 解剖的に耳管(耳と鼻の管)が十分に発達していないので鼻の菌が、耳の方へ入りやすいからです。
- 鼻をすすったり、両方の鼻をつまんで鼻をかむ癖がある場合は鼻の菌が耳に入りやすいからです。

細菌について

- 最近、抗生剤に効きにくい菌が増加してきているからです。

環境について

- 昨今、抗生剤に効きにくい菌が潜在的に保育園や幼稚園で蔓延しています。その菌が集団保育により、うつりやすくなっているからです。
- 抗生剤が用法どおりに飲んでいなかったり、途中でやめてしまった場合です。菌が完全に除菌できていないため再発しやすくなります。
- 授乳の時にお子さんの頭を低くするとお乳が口から鼻、耳にいき中耳炎になりやすいとされています。
- 同居する家族の喫煙もよくないです。

中耳炎を予防するにはどうしたらいいですか？

- ◆ できるだけ母乳で育ててあげましょう。
- ◆ 肺炎球菌ワクチンを接種しましょう。中耳炎の重症化を予防する効果があります。
- ◆ 授乳の時は、お子さんの頭を高くしましょう。
- ◆ 2歳未満のお子さんは、できれば集団保育を避けましょう。
- ◆ かぜをひかないようにしましょう。お家に帰ったら、うがい、手洗いをしましょう。
- ◆ 鼻水、鼻づまりがあれば早めに医療機関に受診しましょう。
- ◆ 鼻がつまっていたら鼻をこまめにかませましょう。その際には片方ずつ鼻をかませましょう。お鼻がかめなければ吸引器で吸ってあげましょう。
- ◆ 鼻すすりをやめさせましょう。
- ◆ 用法どおりにお薬を飲みましょう。

中耳炎になると難聴がずっと残ってしまうのですか？

- 難聴が残ることは、ほとんどありません。

おだいじに
なさってください。



★ 症状が急に変わることもあります。疑問な点や困った事がありましたら、なるべく早目におたずねください。